

平成27年度 第2回向日市ふるさと創生計画委員会 議事要点録

日 時：平成27年10月29日（木）午前10時から12時まで

場 所：向日市民会館 第5会議室

出席者：（委員）

大塚委員、藤澤委員、中村委員、東委員、森田委員、山舗委員、
池田委員、松井委員 ※欠席 高橋委員

（事務局）

今西市長公室長、小賀野市長公室次長、長谷川企画調整課長、内海主査
（傍聴人）

2人

内 容： 以下のとおり

1 開会

2 議題

（1）向日市人口ビジョン（案）について

－事務局から資料説明－

- ・ 向日市の人口のこれまでの推移と現在の状況として、人口構成、転入・転出、出生・死亡、合計特殊出生率、年齢階級別人口移動の推移、流入・流出人口について説明した。
- ・ 向日市の今後の人口のシミュレーション及び人口ピラミッドの変化として、社人研推計、社人研推計＋桂川洛西口新市街地、社人研推計＋桂川洛西口新市街地＋合計特殊出生率上昇の各パターンを比較し説明した。

（委員長）

- ・ 向日市の現状は他都市と比べるとまだかなり良い数値である。多くの地方でもっと深刻な状況にある。
- ・ 昭和45～50年くらいに35,000人から45,000人程度に増え、今後、多少は減少してもこのラインを維持すると想定している。ただ、高齢者が増加するなか、どのようになっていくか。
- ・ 出生率が問題であり、これを上げることができるのか、議論のあるところ。向日市は京都市よりも高いが、その他の市と比べて高いとは言えない。

（委員）

- ・ 3頁の転入転出をみると、京都市を除けば大阪府や長岡京市との移動が大きい。転出が多いのはどのような意味合いを持っているのか、感覚的なものでよいので教えてほしい。例えば家を建てたくても広い土地がない、あるいはさらに都会を志向する人が多いということか。

（事務局）

- ・ 市民課にアンケートを置いて、転入・転出する人について調査したところ、やはり仕事の関係で移動する人が多い。あとは買物の都合、交通利便性、住宅の関係などが転出の理由として挙げられている。

(委員長)

- ・ 通勤通学では大阪府との移動が多い。消費税が 10%に上がる前の駆け込み需要もあって、吹田市・高槻市へのマンション立地で値頃感のある物件に出て行っているのかもしれない。
- ・ 東京への転出は企業の拠点の移動が少しずつ効いているのだろう。
- ・ 転出先として高槻市や北摂に動く人が多いというのは、京都・大阪間の親しみのある地域に住みたいという意識があるためではないか。

(委員)

- ・ J R 及び阪急沿線での人の取り合いということか。
- ・ 意外に長岡京市との出入りがある。一方、宇治市との出入りは少ない。乙訓で育つと、大人になった時にも近くに住みたいという意識があるということか。大局的にみると東京一極集中という問題があるが、それはそれとして、当面、基礎自治体にとっては近隣都市との関係で注目すべきこともあると思う。

(委員)

- ・ 市民は移動するのに向日市だから、長岡京市だからという感覚はない。

(委員長)

- ・ 洛西でも、乙訓でも、良い住宅があれば、市民にとってまちの違いについての意識はあまりない。

(委員)

- ・ 国外からの転入が 112 名ある。どんな国から来ているのか。

(事務局)

- ・ 最近シンガポールや中国などアジア地域を中心に、アメリカなど欧米からの転入もある。

(委員長)

- ・ 留学生もここに含まれる。
- ・ 全国的には結婚のうち 3%程度、つまり 50 組に 1 組が国際結婚で、それを考えると、とりたてて多いという印象はない。

(事務局)

- ・ 飲食店などで従業する人も増えている。

(委員長)

- ・ 首都圏で自動車工場などがある地域では団地丸ごと外国からの従業者、というケースもある。

(2) 市民アンケート結果速報について

－事務局から資料説明－

- ・ 調査対象は、向日市にお住まいの 18 歳以上の方から無作為で 2,000 人を抽出して郵送で実施し、調査期間は 9 月 17 日から 30 日まで、有効回収数は 963 件、有効回収率 48.2%の結果を得たことを説明した。
- ・ 項目ごとにアンケートの内容と回答結果について説明した。

(委員長)

- ・ 回答者のうち 60 歳代・70 歳以上で 48%を超える。例えば広報手段として FaceBook やメルマガなどは年齢によって重要かどうかの意見が分かれるところ。世代ごとの回答についても、例えば 30～50 歳代の勤労世帯とそれ以上との違いなどはどうなっているか。

(事務局)

- ・ 広報については、20・30 歳代の若い層ではホームページを重要と感じる意見も他の年齢層

よりは多く見られる。

(委員長)

- ・ 4 頁で鉄道などの交通利便性が良いという意見が多い一方、他の項目では道路が不便という意見もある。

(委員)

- ・ 60 歳以上の回答者が多いので、住むには良いまちという回答が多いのだろう。他方、雇用や事業所の少なさを感じているが、それが表出していないという印象を受ける。

(委員長)

- ・ 企業などがマーケティングで実施するアンケートでは「ふつう」が多いと、その企業や商品に関心が薄く、要注意だと言われる。

(委員)

- ・ 重要度が高いという項目に「買物の便利さ」がある。道路は傾斜があつて、車椅子にとって通りにくい。できるだけまっすぐで進みやすい歩道が必要。

(委員長)

- ・ ベビーカーも同様だろう。

(委員)

- ・ アンケート対象者の無作為抽出はどんな方法で選んでいるのか。半分は未回答とのことだが、どれだけこの結果を信じてよいのか。

(事務局)

- ・ 特に男女や年齢等の傾斜はかけずに、完全に無作為で 2000 人を抽出している。

(事務局)

- ・ 結果として、男女、年齢等の実際の比率に近くなる。

(委員長)

- ・ 送付した割合がそうでも、回答する時に高齢者の方が多く回答することになりがち。

(事務局)

- ・ 投票率と同様、そういう傾向はある。

(委員)

- ・ そうしたことも考慮に入れながら考えていく必要がある。

(委員長)

- ・ 例えば、60 歳以上と 20～50 歳代で分けて、傾向の違いをみるといったことも考えられる。

(事務局)

- ・ 年齢別等の詳細な集計・分析は進めていきたい。

(委員)

- ・ 実際の居住状況と回答者の状況はどのような関係になっているか。

(事務局)

- ・ ほぼ地区別の人口構成に一致した結果を得られている。

(委員)

- ・ 2 頁の住まいを向日市に決めた理由で「自然環境に恵まれている」を選択した回答者が 1.7% というのは残念に思う。

(委員長)

- ・ 「子どもの保育や教育環境」も 1.7%にとどまっている。
- ・ 東京都北区では区をあげて子育てにやさしいまちづくりに取り組み、子どもの人口が増えてきた。川口から荒川を渡るとマンションの値段が数百万円安くなるが、それでも北区を選ぶ人が多い。乳幼児施策の充実がママさんネットワークで伝わり、子どもの医療費などを考

えて選ばれるまちとして成功している。

- ・ 家を買う時に価格は重要な要素だが、都市間競争においては乳幼児施策や教育も重要。

(委員)

- ・ 駅前で車の運転が怖いという意見がある。
- ・ 住居の移動は向日市とか、洛西という選び方ではない。阪急沿線で小さい子どもがいて、車を利用する人にとっては、鉄道は便利だが、車についてはもう少し配慮があってよいと思う。
- ・ 男性は通勤が遠くてもよいが、育児中の女性は遠くまで働きには行けない。パートタイムや短時間勤務ができるところに住みたいという人もいる。そういう部分がまちの魅力になっていくのではないかな。

(委員長)

- ・ 20 歳代では正社員率が低く、結婚後も共働きが前提になる。特に働く場所がないと結婚もできないということで、女性が流出する。
- ・ 大学の教員でも 47～48 歳くらいが分水嶺で、それより若い世代は多くが非正規。20～30 歳代では女性も働かなければ生活が安定しない。逆に女性が働ければ生活も安定し、子どもを産むこともできる。
- ・ 不妊治療については、国内でも支援する自治体とそうでない自治体に差があり、それを理由として引っ越す人もいる。自治体間も今後はそういう競争になる。

(委員)

- ・ 今日の新聞に阪急東向日駅前のイオン跡地についての記事が出ていた。

(委員)

- ・ マンションに例えば 200 世帯も入居するようなことがあれば、東向日周辺も変わるのではないかな。

(委員)

- ・ 人口増加にもつながる。

(委員)

- ・ 向日市の限られた土地のなかに入居してもらおうというのは難しい。シャッターを下ろした商店にも居住者がおり、商店街がひっそりしているように感じる。みんな桂川イオンに行ってしまうが、車を持っていない人はそこまで行けない。東向日駅前でマンション付でも店舗ができれば、便利になる。

(委員長)

- ・ 大手スーパーはこれまで 1 階が食料品、2 階が衣料品や家電製品などを扱う総合スーパーを展開してきたが、あのタイプは限界を迎えており、例えば食品だけを扱うスーパーなら採算が取れると聞く。
- ・ 旧来の商店街は店舗だけなら貸したいという人もいるが、職住一体で入り口やトイレが一箇所しかないといった問題がある。商店街と協力して考えていかなければ難しい。
- ・ 高齢化が進むと車の運転も困難になる。高齢ドライバーの事故も増えている。坂も多いこのまちで、そうした人の移動手段をどうしていくかも課題。

(委員)

- ・ 総じてまちに対する満足感が高い。今はよいが、だからといって安心しては都市間競争で相対的に落ち込んでいく。頑張るまちには魅力が生まれる。
- ・ 今後、人口が減っても満足感を高める取り組みを進めるのか、それとも現在の人口規模を維持するための方法を考えるのか。
- ・ 自分のまちの売りをどう考えるか。価値観は多様化しており、例えば自然を大切に考える人もいれば、交通が至便で身近な仕事があることを大切にする人もいる。京丹後市でも向日

市と同様に定住意向は高いが、価値観は異なるだろう。向日市ではどういう価値観を提供するのか、何を売りにしていくのかが問われる。

(委員)

- ・向日市の売りは安全安心と通勤等の便利さではないか。
- ・北部の開発地にたまたま知り合いが引っ越してくるようになったが、治安が良いとは言えない他都市から引っ越してくる。安全安心も他都市に比べてあるのではないか。

(委員長)

- ・今後、さらに市内でマンションが増えると、阪急が特急や急行を停車させる可能性もあるのではないか。茨木ではＪＲ新快速を停車させると言っている。例えばＪＲなら桂川に停めるかもしれない。その場合、旧来の市街地が中心性を失うことも考えられる。
- ・観光は資源もあるので観光関係で就労人口の増加を考えてもよい。京都に近く、観光客が流れてくるようになれば商売にもつながる。
- ・北部の住宅地はいつ頃、入居する予定なのか。

(事務局)

- ・平成 29 年度には完成予定。

(委員長)

- ・企業の転入転出もあると思うが、就業者数はどうか。

(事務局)

- ・第三次産業が多く、その事業所数は平成 24 年で約 1,400、従業者数が 11,000 人である。

(委員)

- ・大企業を向日市に誘致するのは難しい。地価が高く、場所もない。国道 171 号の角切りさえできていない状況で、本社はここに残しても工場は京都府北部に持っていくという企業も少なくない。

(委員長)

- ・若い人の起業や観光客相手の喫茶店など小規模事業についても可能性がある。

(委員)

- ・向日市内には喫茶店は少ない。

(委員長)

- ・最近、向日市に出店したスイーツの店の方に、なぜ向日市なのかと聞くと、向日市は所得が高い層が多く、良いものであれば値段が高くても買いにきてくれるから、ということだった。工夫をすれば、若くやる気のある人がやりやすいと判断するかもしれない。小企業の創業支援による賑わいづくりが考えられないか。
- ・また、激辛商店街でまちの知名度は高まった。

(3) 向日市ふるさと創生計画概要（素案）について

－事務局から資料説明－

- ・向日市ふるさと創生計画構成イメージを用い、施策の３つの柱である「歴史を活かし、活力と魅力あふれるまちづくり」「人と暮らしに明るくやさしいまちづくり」「信頼と協働で市民の声が届くまちづくり」を基本に、それに基づく施策分野等の検討状況について説明した。

(委員長)

- ・まだ概要ではあるが、現在こういう体系で検討中とのこと。
- ・本日の全体を通して言い足りなかったことなどあれば、ご意見をいただきたい。
- ・人口の将来推計は本当にこうなるのか、という意見があったが、あくまで現状の傾向が続けばこうなる、というもの。例えば少し前までは滋賀県はこのままずっと人口が伸びていく

とされていたが、当時から専門家はこんな状況は続かないと指摘していた。

- ・ 空き家について、最近の向日市での状況はどうか。

(事務局)

- ・ 一部近隣地域から防犯や景観の面で対応が求められる場合もあるが、あまり問題となっていない。

(委員長)

- ・ 大きな問題にはなっていないということか。

(事務局)

- ・ 空き家になってもすぐに買い手がつくというケースが多く、それほど大きな問題になっていないところである。

(委員)

- ・ たくさんの施策が薄く広く示されているが、例えば子育てを重点的にやるとか、観光に集中するとか、どこかに力強く投資するというやり方もあるのではないか。

(委員長)

- ・ 行政として、色付けや味付け、どこかに重点を置くという考えはあるか。

(事務局)

- ・ 市長が3つの柱を示しており、それがテーマになるのではないか。

(委員)

- ・ 向日市が策定するふるさと計画とは総合計画のようなもので、国が求める総合戦略はそのなかから抽出・特化されるという形と理解してよいか。

(事務局)

- ・ そのような理解で結構です。

(委員)

- ・ 国が進める総合戦略は5年間で施策展開を図るもので、国は交付金で支援を考えている。今年度は全額、来年度からは地方が半分を負担する形となる。再来年どうなるかはわからないが、結果として人口増加のための施策展開の足掛かりをつくりたいというのが国の想定。このため、ハードもの、箱ものよりもソフトに重点を置いた施策展開が主として考えられる。また、総合戦略をまとめるにあたっては、これを入れておいた方が交付金をとりやすい、というものはそのように位置付けておけばよい。
- ・ いかに5年間で子育て支援、起業支援、女性の働く場などのための戦略が描けるか。

(委員長)

- ・ 向日神社に行くにしても、鳥居の前まで車で走ってもそこからどう行けば良いのかわからないのが現状。道路整備をするのならさらに、そこに観光サインを置くと効果的。
- ・ 若い人が歴史文化資源周辺で喫茶店をやるかもしれない。それがまた新しい商業の集積を生むきっかけにもなる。京都には多くの若者がおり、上手くやれば効果も得られるのではないか。
- ・ アンケートでも若い世代の意見を把握してもらえると良いと思う。

(委員)

- ・ 高齢社会で会社を退職し、時間に余裕のある人が増える。向日市には、歴まち認定を受けられるだけの良いものがある。例えば放置竹林にしても整備などができないか。かぐやの夕べには多くの小中学生が参加し、竹の径を少人数で歩くという高齢者も多い。
- ・ 小さな竹を使って駅などに何かシンボリックなものをつくるといった取組をすれば、喫茶店等の商売にもつながり、にぎやかになるのではないか。

(委員長)

- ・ 「歩く」ことを誘導する方法は効果的。最近、富士山では3日くらいかけて麓から登るといふ人が増えている。それも連日ではなく、一日はここまで、また別の日にはその続きから、という登り方ようだ。
- ・ 寺社も多いこの地域でも、ルートを設定し、そこでお金が落ちる工夫をすれば、観光ガイドの育成や竹林の手入れにもつながるのではないかな。

3 その他

(事務局)

- ・ 次回は1月初旬を予定しており、後日、日程調整をさせていただく。ふるさと創生計画、人口ビジョン、総合戦略の案を示したい。アンケートについても分析したものをお示しする。

閉会

平成27年度 第2回 向日市ふるさと創生計画委員会

日 時：平成27年10月29日(木)

午前10時から

場 所：向日市民会館 第5会議室

次 第

1 開 会

2 議題

(1) 向日市人口ビジョン（案）について

(2) 市民アンケート結果速報について

(3) 向日市ふるさと創生計画概要（素案）について

3 その他

4 閉 会

向日市人口ビジョン (案)

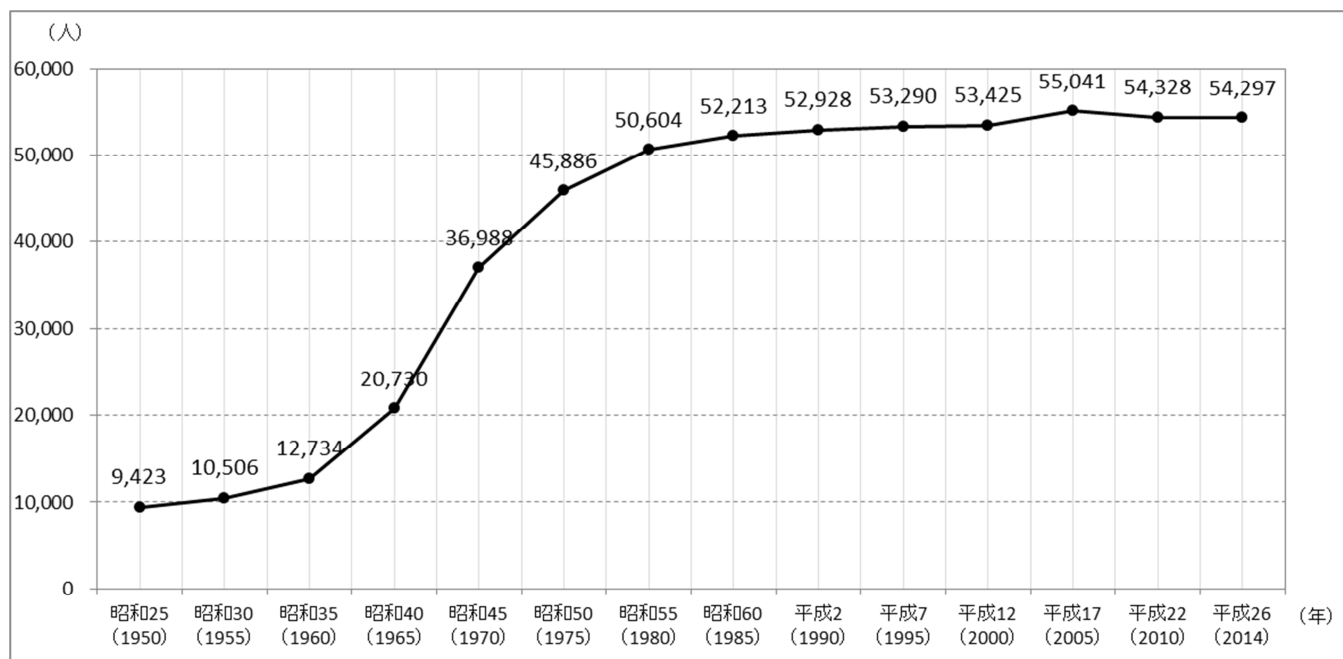
1 数字でみる向日市

(1)人口の推移

向日市の人口は、平成 22（2010）年 10 月に行われた国勢調査では 54,328 人で、平成 17（2005）年の 55,041 人をピークに初めて減少に転じました。

平成 26（2014）年 10 月 1 日現在の人口は 54,297 人で、わずかながら、人口減少が進んでいます。なお、今後数年間は、市域北部で整備が進む桂川洛西口新市街地への入居が開始され、人口が一時的に増加することが予想されます。

向日市の人口推移



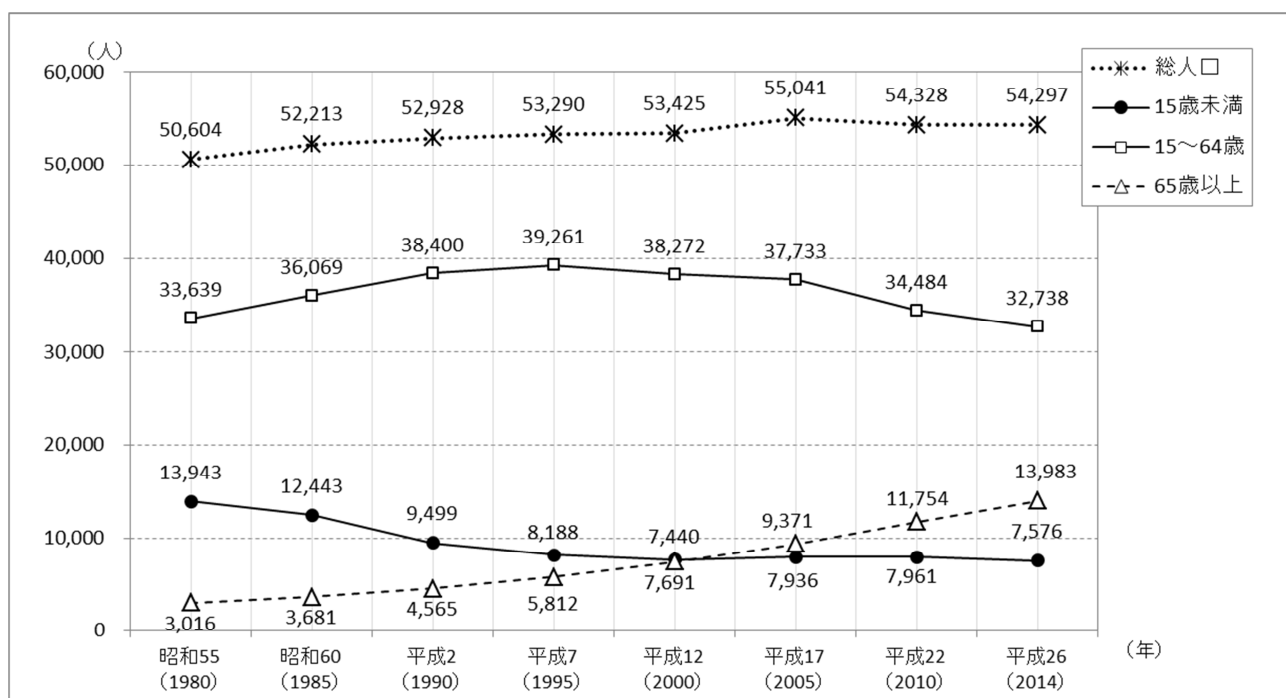
資料：昭和 25（1950）年～平成 22（2010）年は国勢調査、平成 26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

(2) 年齢 3 区分別人口の推移

向日市の年齢 3 区分別の人口をみると、生産年齢人口（15～64 歳）は平成 7（1995）年以降、減少傾向にあります。また、平成 17（2005）年に老年人口（65 歳以上）と年少人口（0～14 歳）の逆転が始まっています。高齢化の進展により、老年人口比率も平成 26（2014）年には 25.8%と市民の 1 / 4 を超えています。

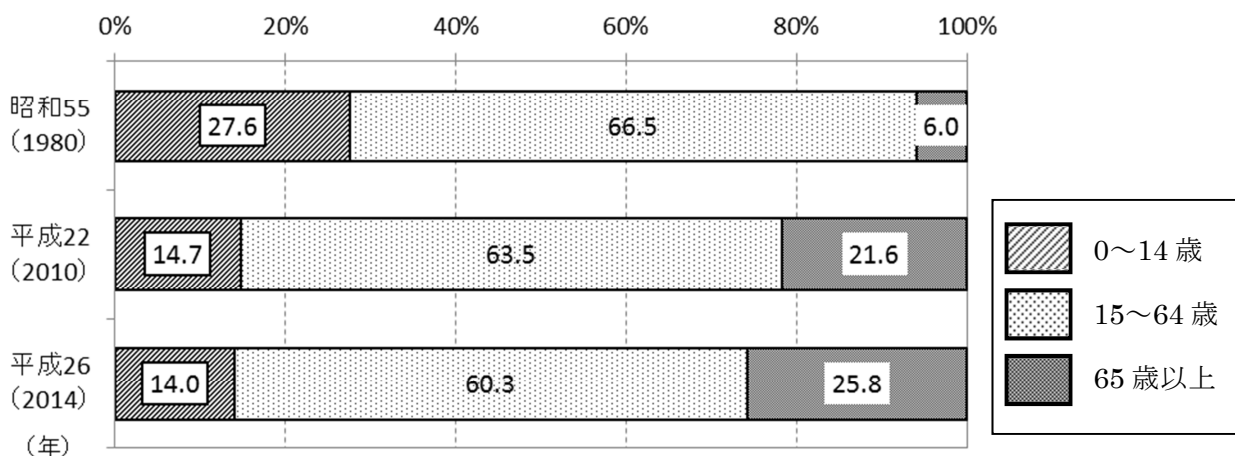
昭和 55（1980）年には生産年齢人口約 11.2 人でひとりの老年人口を支えていましたが、平成 26（2014）年には 2.3 人でひとりの老年人口支えていることになります。

向日市の年齢 3 区分別人口の推移



資料：平成 22（2010）年までは国勢調査、平成 26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

年齢 3 区分別人口割合の推移

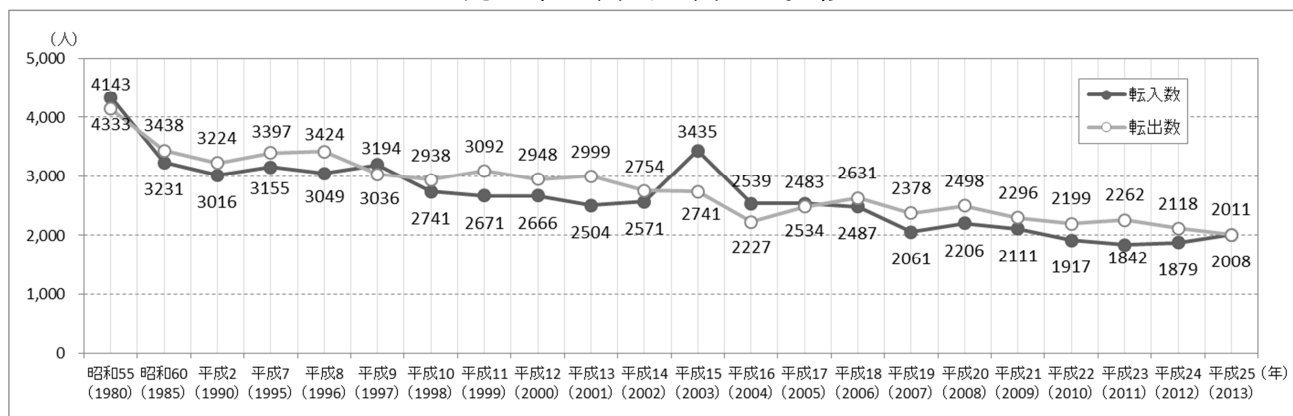


資料：昭和 55 年、平成 22 年は国勢調査、平成 26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

(3) 転入・転出数の推移

向日市の転入・転出の動きをみると、昭和 60（1985）年以降は平成 15（2003）年など数力年で転入超過の年がみられるものの、多くの年で転出数が転入数を上回る転出超過となっています。また、転入数、転出数とも穏やかな減少が続いており、人口移動の縮小という都市としての成熟が進んでいることを示しています。

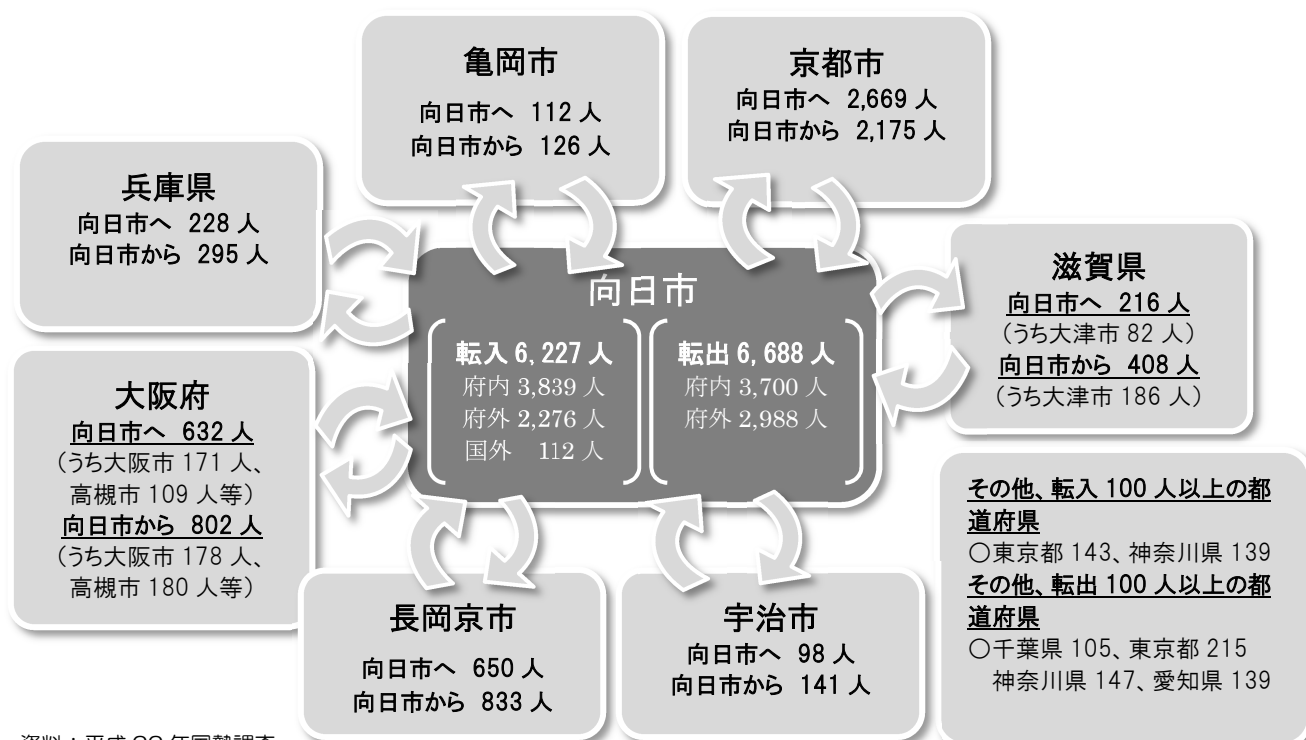
向日市の転入・転出の推移



資料：向日市統計書

次に 5 年前の常住地からみた向日市への転出入をみると、転入元・転出先とも京都市との移動が多く、また、京都市との関係でのみ、向日市の流入超過になっています。その他に移動の大きな自治体との関係では、ほぼ向日市からの流出超過になっています。また、転出入とも近畿圏内での移動が 80% 程度を占め、転出入先はそれほど遠方でないケースが多いと考えられます。

5 年前の常住地からみた向日市への転入元、向日市からの転出先（主な自治体）

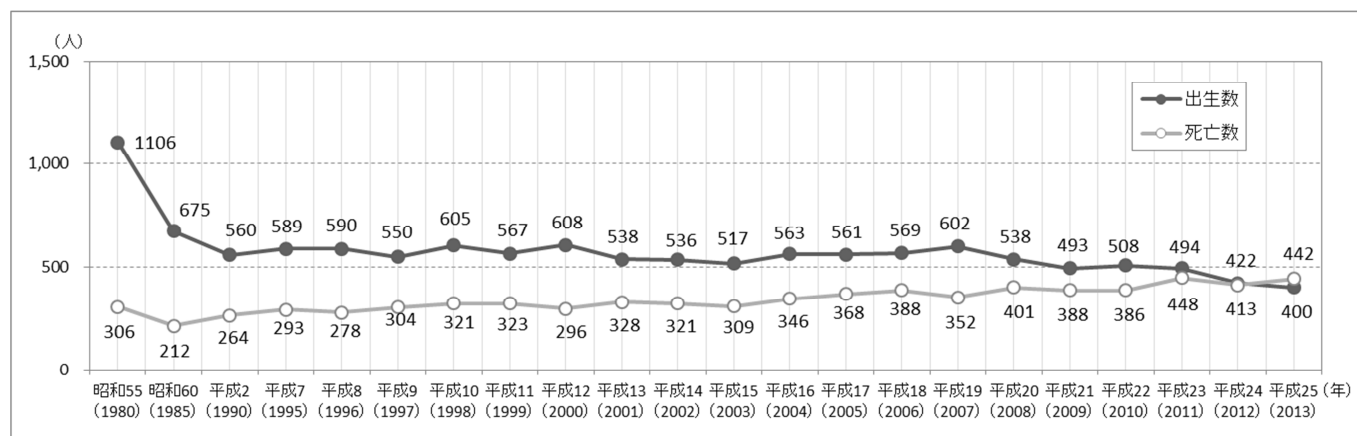


資料：平成 22 年国勢調査

(4)出生・死亡数の推移

向日市の出生・死亡数の推移をみると、昭和 55（1980）年では出生数 1,106 人に対し死亡数 306 人、800 人の「自然増」で、その後も出生数が死亡数を上回る「自然増」が継続してきました。しかし、出生数は長期的に微減、一方で死亡数の増加が進み、平成 25（2013）年では出生・死亡数が初めて逆転しました。自然減と社会減が同時に起こると人口減少が加速するといわれています。

向日市の出生・死亡数の推移



資料：向日市統計書

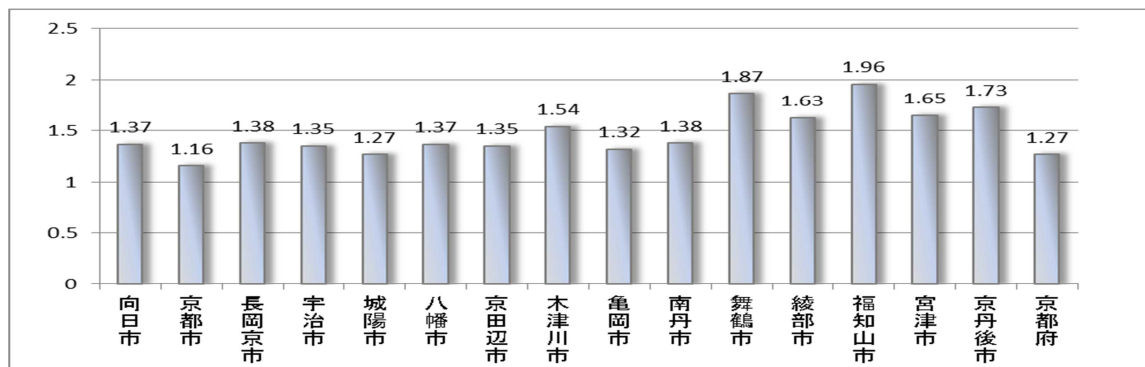
■合計特殊出生率

向日市の合計特殊出生率（平成 20～24 年）を京都府内の他都市と比較してみると、府内 15 市のなかで 9 位（1.37）、近隣都市では京都市（1.16）や城陽市（1.27）よりはやや高く、長岡京市（1.38）や八幡市（1.37）、宇治市（1.35）等とほぼ同様となっています。

京都府内で合計特殊出生率が高い自治体は、概ね北部に集中しており、向日市の合計特殊出生率は、京都府平均（1.27）を上回っていますが、全国（1.38）はわずかに下回ります。

また、向日市の合計特殊出生率は、平成 15～19 年まで低下が続いてきましたが、平成 20～24 年では上昇しています。

京都府内各市の合計特殊出生率（平成 20～24 年）



	昭和 58～ 62 年	昭和 63～ 平成 4 年	平成 5～9 年	平成 10～ 14 年	平成 15～ 19 年	平成 20～ 24 年
向日市の合計特殊出生率	1.85	1.57	1.42	1.33	1.31	1.37

資料：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計

(5) 年齢階級別人口移動の推移

平成 17（2005）年と平成 22（2010）年の国勢調査を比較し、年齢（5 歳階級）・男女別の人口変動（0～4 歳の層が 5～9 歳になる 5 年後、実際には何人くらいになっているか）をみると、10～14 歳女性を除く全ての年齢階層で減少を示しています。

死亡による減少が現れる高齢者層を除いて、特に人口変化率の減少が顕著な 10 歳代後半や 20 歳代前半は、進学や就職を契機とした市外への転出が要因になっていると考えられます。

向日市の人口変化率

(単位：人、%)

年齢	平成17年				平成22年				変化率		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女
総数	55,041	26,564	28,477	100	54,328	26,159	28,169	100			
0～4歳	2,816	1,441	1,375	5.12	2,575	1,363	1,212	4.74	0.968	0.965	0.971
5～9歳	2,728	1,385	1,343	4.96	2,726	1,391	1,335	5.02	0.975	0.975	0.975
10～14歳	2,392	1,183	1,209	4.35	2,660	1,350	1,310	4.90	1.006	0.997	1.015
15～19歳	2,570	1,347	1,223	4.67	2,406	1,179	1,227	4.43	0.918	0.914	0.923
20～24歳	3,032	1,513	1,519	5.51	2,360	1,231	1,129	4.34	0.899	0.857	0.941
25～29歳	3,840	1,892	1,948	6.98	2,726	1,296	1,430	5.02	0.979	0.995	0.963
30～34歳	5,175	2,498	2,677	9.40	3,759	1,883	1,876	6.92	0.961	0.955	0.968
35～39歳	4,280	2,200	2,080	7.78	4,975	2,385	2,590	9.16	0.956	0.944	0.969
40～44歳	3,364	1,682	1,682	6.11	4,091	2,076	2,015	7.53	0.965	0.956	0.974
45～49歳	2,997	1,477	1,520	5.45	3,246	1,608	1,638	5.97	0.973	0.965	0.982
50～54歳	3,447	1,627	1,820	6.26	2,917	1,425	1,492	5.37	0.967	0.957	0.976
55～59歳	4,825	2,246	2,579	8.77	3,333	1,557	1,776	6.13	0.968	0.965	0.971
60～64歳	4,203	2,028	2,175	7.64	4,671	2,167	2,504	8.60	0.950	0.937	0.962
65～69歳	3,188	1,534	1,654	5.79	3,994	1,901	2,093	7.35	0.934	0.910	0.956
70～74歳	2,397	1,122	1,275	4.35	2,978	1,396	1,582	5.48	0.894	0.864	0.920
75～79歳	1,703	758	945	3.09	2,142	969	1,173	3.94	0.817	0.757	0.866
80～84歳	1,134	418	716	2.06	1,392	574	818	2.56	0.707	0.560	0.793
85～89歳	567	151	416	1.03	802	234	568	1.48	0.787	0.596	0.856
90～94歳	306	61	245	0.56	446	90	356	0.82	0.000	0.000	0.000
95～99歳	69	0	69	0.13	0	0	0	0.00	0.000	-	0.000
100歳以上	7	0	7	0.01	0	0	0	0.00			
年齢不詳	1	1	0	0.00	129	84	45	0.24			
15歳未満	7,936	4,009	3,927	14.42	7,961	4,104	3,857	14.65			
15～64歳	37,733	18,510	19,223	68.55	34,484	16,807	17,677	63.47			
65歳以上	9,371	4,044	5,327	17.03	11,754	5,164	6,590	21.64			

資料：国勢調査

※変化率は、年齢(5 歳階級)別の人口の 5 年後の変化率を示しています。

例えば、平成 17 年に 15～19 歳の総数は 2,570 人であるが、5 年後の平成 22 年に 20～24 歳の総数は 2,360 人となり、変化率は $2,360 / 2,570 \approx 0.918$ となります。

また、平成 17 年に 20～24 歳の総数は 3,032 人であるが、5 年後の平成 22 年には 25～29 歳の総数は 2,726 人となるため、変化率は $2,726 / 3,032 \approx 0.899$ となります。

(6) 流入・流出人口（15 歳以上通勤・通学流動）

流入・流出人口（通勤・通学者の動向）をみると、平成 22（2010）年の国勢調査において、市内に常住する従業・通学者 28,087 人のうち、向日市内で従業・通学する人は 6,940 人とどまっており、約 4 分の 3 が市外に流出しています。

一方、向日市内で従業・通学する人は 16,499 人おり、そのうち市内に常住している人は 6,940 人（42.1%）で、過半数が市外からの流入となっています。

通勤・通学の流入に比べて流出が大きく、居住都市としての性格を表しています。

流入・流出のいずれにおいても、隣接する京都市との流入・流出が中心で、その他では乙訓（長岡京市、大山崎町）、京都南部（宇治市、久御山町等）、大阪府（大阪市、高槻市、茨木市等）との日常的な通勤・通学による往来が多くみられます。

向日市における通勤・通学による流入・流出(15 歳以上)人口

平成 22 年 10 月 1 日現在

単位：人

		流出			流入		
		総数	就業者数	通学者数	総数	就業者数	通学者数
市内に常住する従業・通学者		28,087	25,312	2,775			
当地(市内)で従業・通学する者					16,499	14,862	1,637
自市		6,940	6,300	640	6,940	6,300	640
京都府		15,499	14,065	1,434	7,079	6,383	696
	京都市	12,132	10,906	1,226	4,623	4,136	487
	宇治市	258	229	29	208	198	10
	城陽市	60	56	4	109	106	3
	亀岡市	220	209	11	273	254	19
	長岡京市	2,097	1,980	117	1,421	1,277	144
	大山崎町	232	232	0	197	177	20
	久御山町	182	175	7	26	26	0
滋賀県		594	475	119	365	347	18
	大津市	243	197	46	187	180	7
	草津市	162	115	47	47	43	4
大阪府		3,523	3,187	336	910	793	117
	大阪市	1,966	1,885	81	78	74	4
	吹田市	246	180	66	46	45	1
	高槻市	393	360	33	334	268	66
	枚方市	106	85	21	84	80	4
	茨木市	246	209	37	128	97	31
兵庫県		312	247	65	85	81	4
その他		1,219	1,038	181	1,120	958	162

資料：国勢調査

2 向日市の人口の将来推計と考察

(1)向日市の人口シミュレーション

以下のグラフは、それぞれ次のような人口推計の結果を示したものです。

① 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計

合計特殊出生率は現状の 1.37 程度が継続とする一方、年代ごとに算出する社会移動による人口増減が平成 27（2015）～32（2020）年までに 0.5 倍程度に低下する（転出・転入による人口移動が半分になる）と仮定した場合の推計。

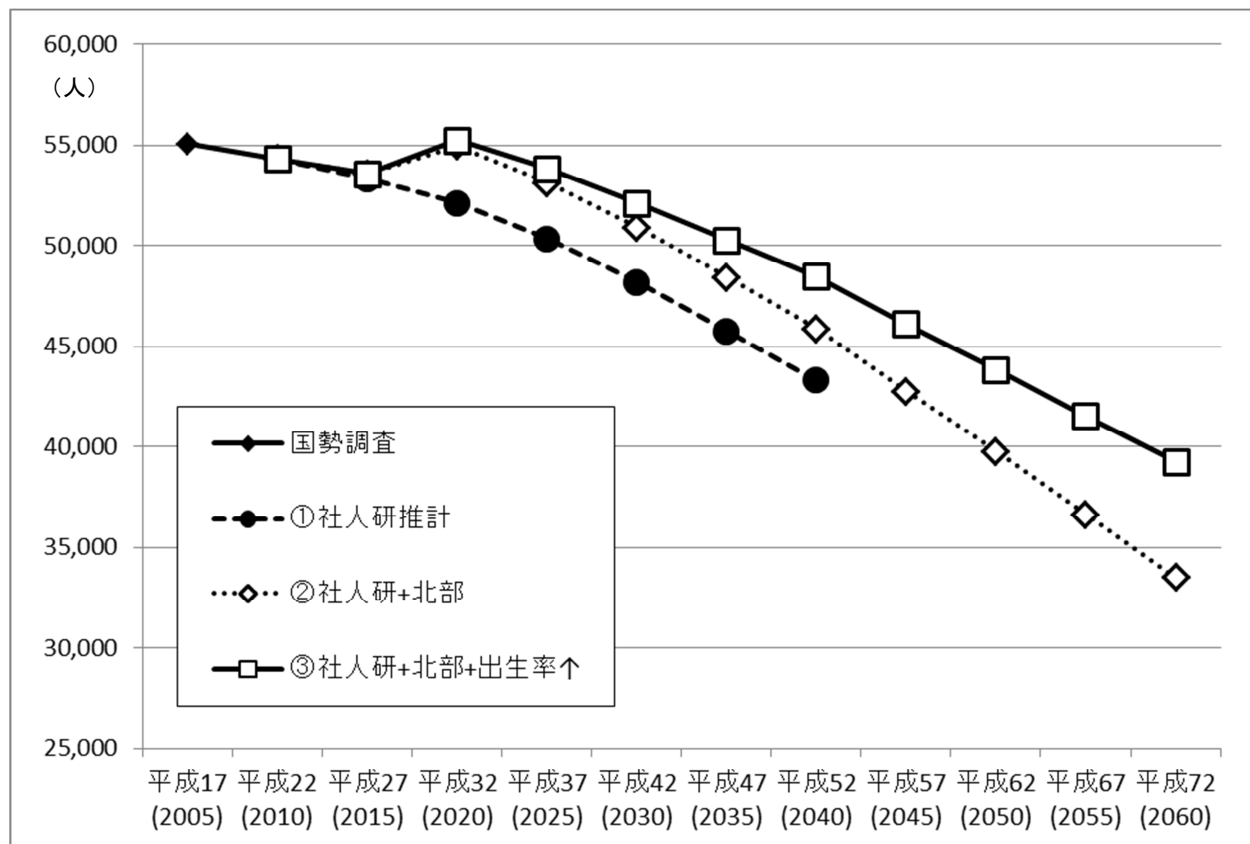
② 社人研推計＋桂川洛西口新市街地（以下「北部」という。）

合計特殊出生率及び社会移動による人口の想定は①と同様とした上、北部での人口増を想定した推計。

③ 社人研推計＋北部＋出生率上昇

合計特殊出生率が現状の 1.37 から平成 52（2040）年までに人口置換水準（2.07）まで上昇し、かつ社会移動による人口増減は 0.5 倍程度に低下するとした上、北部での人口増を想定した推計。

向日市の人口シミュレーション



「①社人研推計」では、社会移動（転入転出）の転出超過が半分（0.5）程度に縮小していくと設定されていますが、それでも転出は超過が続き、同時に出生・死亡による自然動態もマイナス傾向の状態にあることから、平成 52（2040）年に 43,300 人程度と、平成 27 年から 10,000 人程度減少する推計になっています。ただし、この推計には北部への人口増は想定されていません。

その他の2つのケースでは、本市の特色でもある北部への人口増（2,800 人程度）を想定しており、「①社人研推計」よりも、さらに地域実態に即した推計となります。

社会移動のマイナスが縮小するとした「①社人研推計」に北部への人口増を加えた「②社人研＋北部」では、平成 52 年で 45,800 人程度、平成 72（2060）年でも 33,400 人程度を維持する推計となっています。

さらに、「②社人研＋北部」をベースに、合計特殊出生率が、現状の 1.37 程度の出生率が平成 52（2040）年までに人口置換水準である 2.07 まで高まるとした「③社人研＋北部＋出生率↑（上昇）」では、平成 52（2040）年で 48,400 人を、平成 72（2060）年で 39,200 人程度を維持する推計となりました。

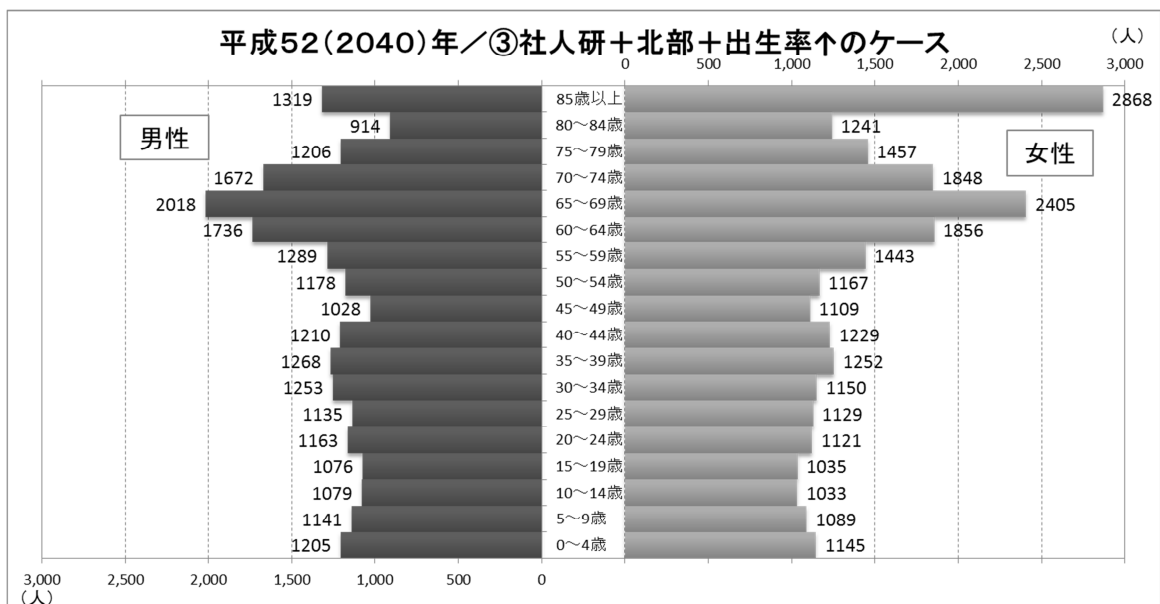
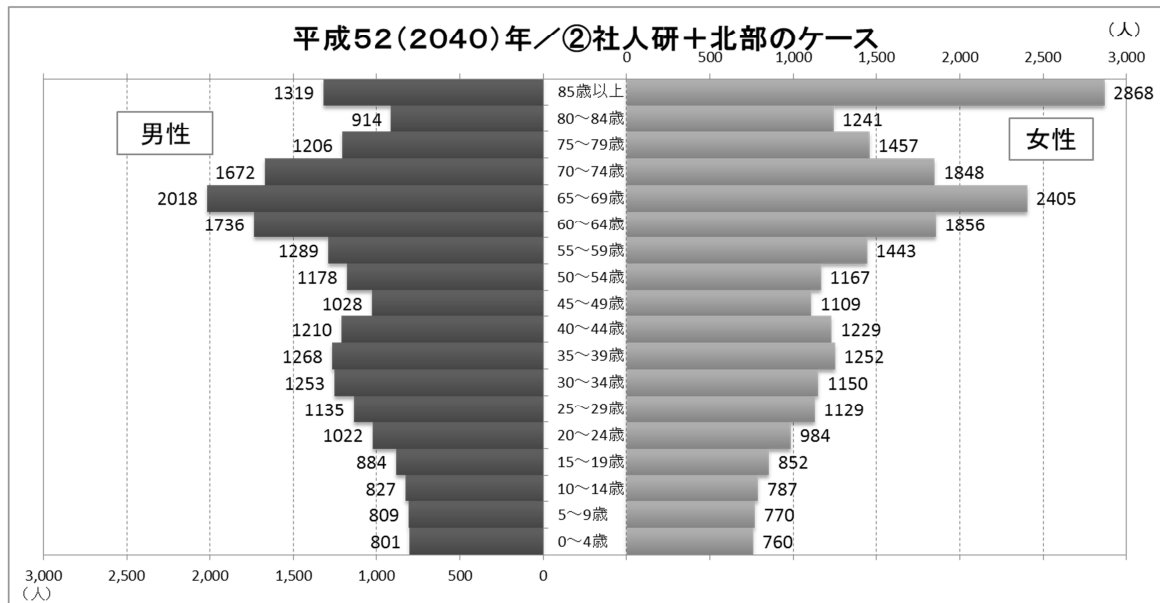
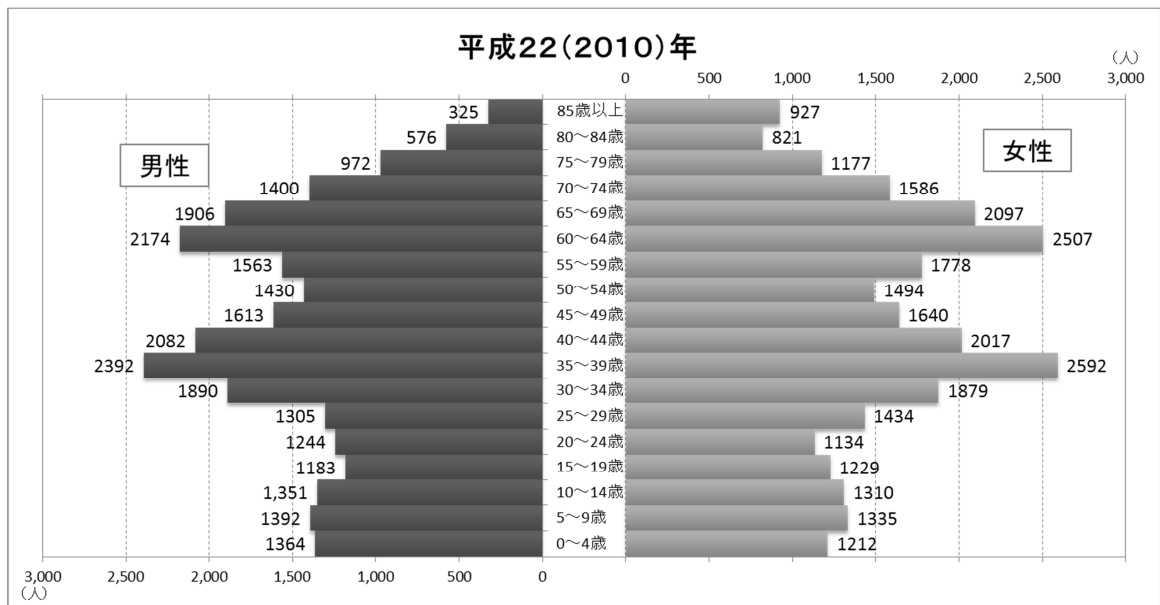
社人研推計、出生率上昇時推計

	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	平成 32 年 (2020)	平成 37 年 (2025)	平成 42 年 (2030)	平成 47 年 (2035)	平成 52 年 (2040)	平成 57 年 (2045)	平成 62 年 (2050)	平成 67 年 (2055)	平成 72 年 (2060)
国勢調査	54,328										
①社人研 推計		53,349	52,135	50,345	48,174	45,762	43,315	—	—	—	—
②社人研 ＋北部		53,595	54,956	53,148	50,926	48,437	45,876	42,768	39,775	36,639	33,477
③社人研 ＋北部＋ 出生率↑		53,595	55,253	53,834	52,113	50,269	48,467	46,092	43,847	41,519	39,248

（参考：向日市人口シミュレーションパターン表）

	自然動態 出生・死亡	社会動態 転出・転入	平成 42 年 (2030 年)	平成 72 年 (2060 年)
①社人研推計	現行の状況が続く	移動が半分になる (転出超過が縮小)	48,174	—
②社人研推計 ＋北部	現行の状況が続く	移動が半分になる 北部への流入見込む	50,926	33,477
③社人研推計＋北部 ＋出生率↑	出生率が改善 平成 52 年 2.07	移動が半分になる 北部への流入見込む	52,113	39,248

推計における人口ピラミッドの変化



人口ピラミッドの推移をみると、平成 22 年では 14 歳以下の人口の割合が低く、団塊及び団塊ジュニア世代のふたつのふくらみを有するひょうたん型となっています。

人口シミュレーションのうち、本市の実態に合わせて北部で人口増を加えた「②社人研＋北部」においては、年少人口の減少と高齢人口の増加により、その形状は「つぼ型」に変化しています。

この間、80 歳以上の人口は、男女合わせて平成 22(2010)年の 2,679 人から平成 52(2040)年でおおよそ 2 倍の 6,342 人となり、特に高齢女性の増加が顕著となります。

また、10 代、20 代女性の人口は、平成 22(2010)年の 5,107 人からで約 26.5%減少し、平成 52 年では 3,752 人となります。

一方、このケースと「③社人研＋北部＋出生率上昇」を比較すると、80 歳以上の人口は同じですが、10 代、20 代女性の人口における平成 22(2010)年から 52(2040)年にかけての減少率は 15.4%にとどまり、平成 52 年では 4,318 人となります。結果として、同じつぼ型でも②に比べて年少人口や若者層のボリュームが大きい人口ピラミッドとなっています。

いずれのケースにおいても、全体の人口ボリュームの減少（ピラミッドが細くなる）及び年少人口・生産年齢人口（15～64 歳以下）比率の低下、老年人口比率の拡大は避けられませんが、「③社人研＋北部新市街地＋出生率↑」においては、これらの課題が一定程度、緩和されることになります。

向日市まちづくり市民アンケート

（速報）

向日市まちづくり市民アンケート 結果報告

■ 調査の概要

1 調査目的

市民にとって向日市を“ふるさと”と思ってもらえるよう、平成 27 年度から平成 31 年度までを計画期間とする市の最上位計画「向日市ふるさと創生計画」の策定に取り組むにあたり、市政について、市民が日頃どのように感じておられるかを把握し、計画づくりに反映するために実施しました。

2 調査方法

調査名称	向日市まちづくり市民アンケート
調査地域	向日市全域
対象者	18 歳以上の市内居住者
対象抽出方法	無作為抽出
抽出数	2,000 件
実施期間	平成 27 年 9 月
調査方法	郵送により配布・回収

3 調査票の回収状況

調査票の有効回収数は 963 件、有効回収率 48.2%の結果を得ました。

4 分析についての注意点

- ・集計・分析においては、実数とともに、特記しない限り回答者総数（N＝963）を母数とした出現率（％）を算出しています。
- ・集計結果において、出現率の値は全て小数点以下第二位を四捨五入して表記しているため、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・「2 つ以上を選択回答」の設問については、出現率の合計が 100%を超える場合があります。

5 調査項目

回答者属性	性別、年齢、居住地、居住歴、向日市選択理由
住みごこちやまちづくりの取組について（評価）	○向日市の住み心地、良い点、良くない点 ○定住意向
まちづくり課題について	○雇用や経済の活性化について ○少子化対策について ○地域の安全・安心について ○広報媒体、広報紙の充実について
まちの将来について	○望ましい将来像
施策の満足度・重要度について	○文化やコミュニティに関すること ○健康や福祉に関すること ○にぎわいや活力に関すること ○快適な生活環境に関すること ○道路の整備に関すること ○安心・安全に関すること ○土地利用や都市整備に関すること ○情報発信全般に関すること ○まちづくり全般に関すること
自由意見	自由記述

■ あなた（回答者）ご自身について

問1 あなたの性別は。

男性 44.5% 女性 55.0% 無回答 0.4%

問2 あなたの年齢は。（平成27年9月1日現在でお答えください）

10歳代（18、19歳）	1.6%
20歳代	5.9%
30歳代	12.5%
40歳代	18.5%
50歳代	13.3%
60歳代	20.0%
70歳以上	28.2%

問3 あなたのお住まいは。

物集女地区	15.6%
寺戸地区	38.4%
森本地区	9.6%
鶏冠井地区	9.7%
上植野地区	19.5%
向日地区	3.1%
西向日地区	1.6%
向日台地区	2.6%

問4 あなたはいつ頃から向日市にお住まいですか。

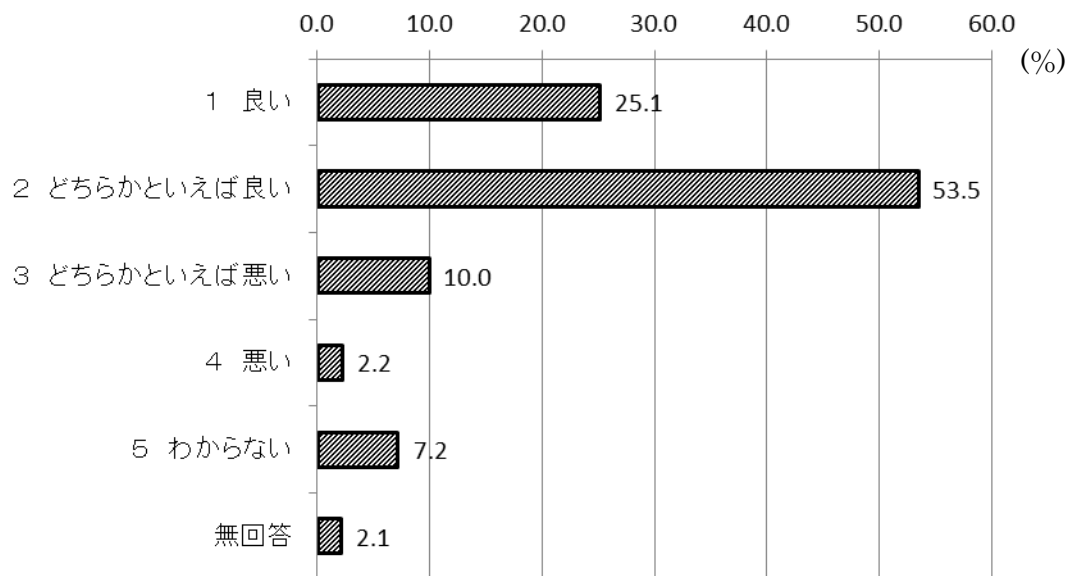
昭和30年以前から	5.7%
昭和31～40年	7.1%
昭和41～50年	20.4%
昭和51～60年	19.4%
昭和61～平成7年	15.9%
平成8～17年	15.5%
平成18年以降	16.0%
無回答	0.1%

問5 お住まいを向日市に決めたのはなぜですか。

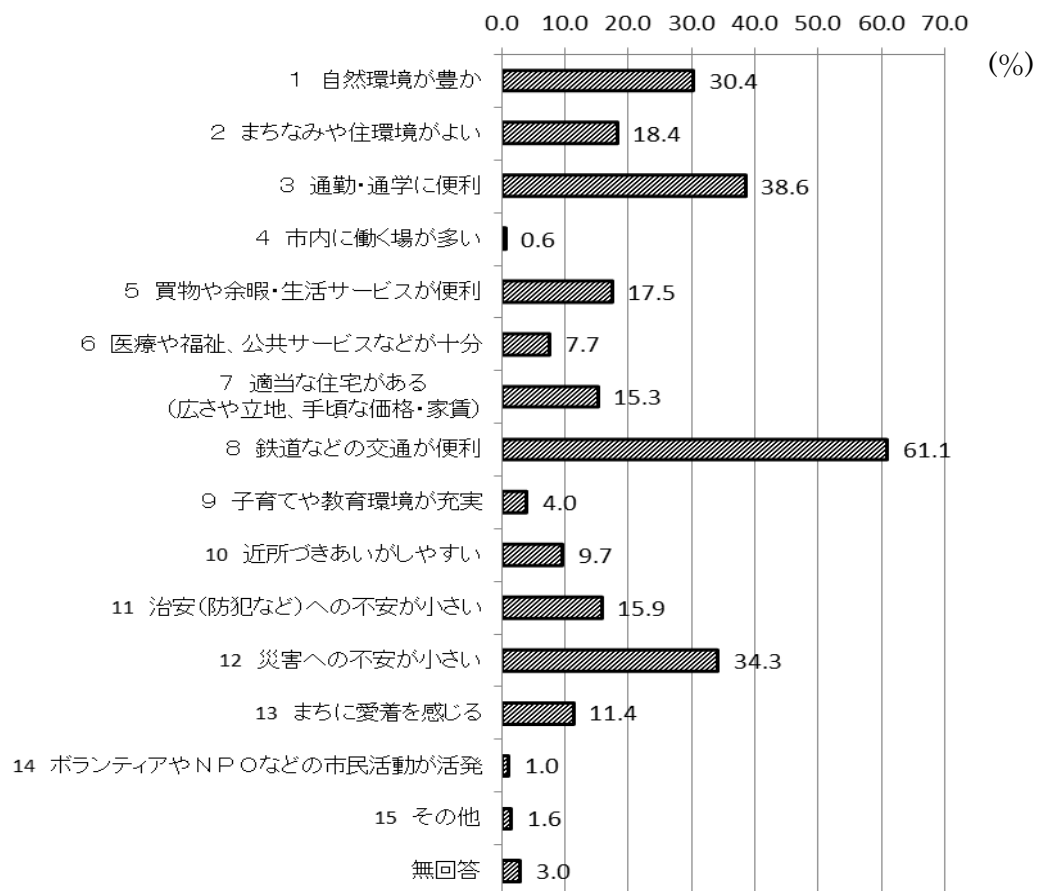
親の代から住んでいる	27.0%
結婚のため	18.9%
子どもの保育や教育環境が充実している	1.7%
条件に見合う土地や住宅が見つかった	30.4%
通勤通学に便利	10.8%
買物に便利	0.5%
自然環境に恵まれている	1.7%
その他	8.7%
無回答	0.3%

■ まちの住みごこちや、まちの施策について

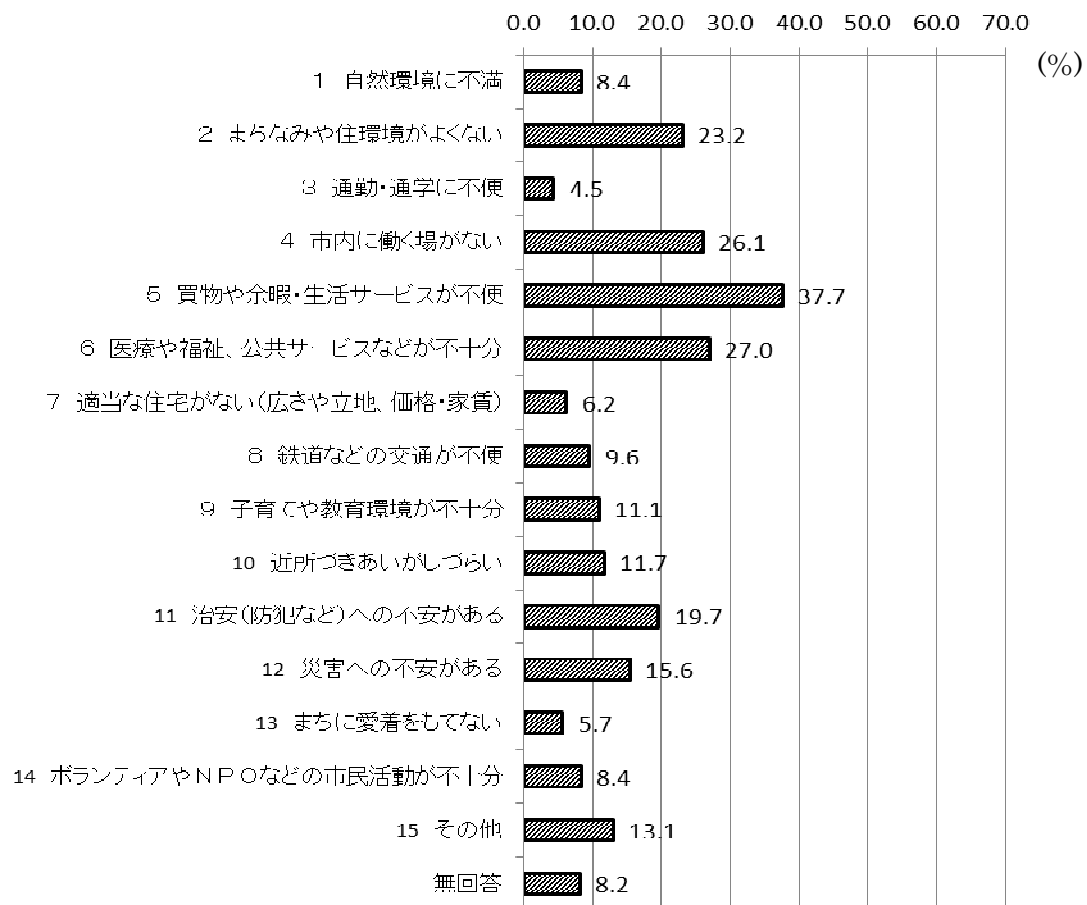
問6 あなたは向日市の住み心地について、どう思いますか。あてはまる番号を1つご記入ください。



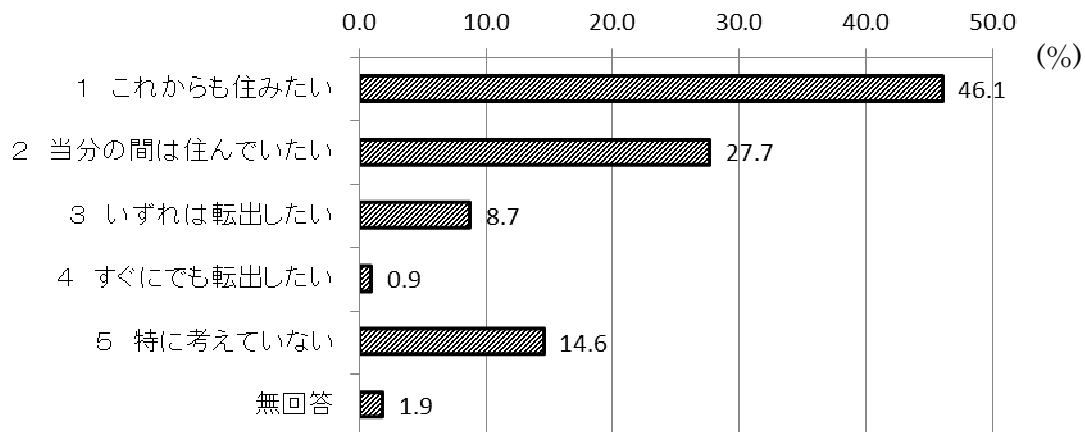
問7 向日市に住んでいて、良いと思う点は何ですか。次のなかから3つまで選んで、ご記入ください。



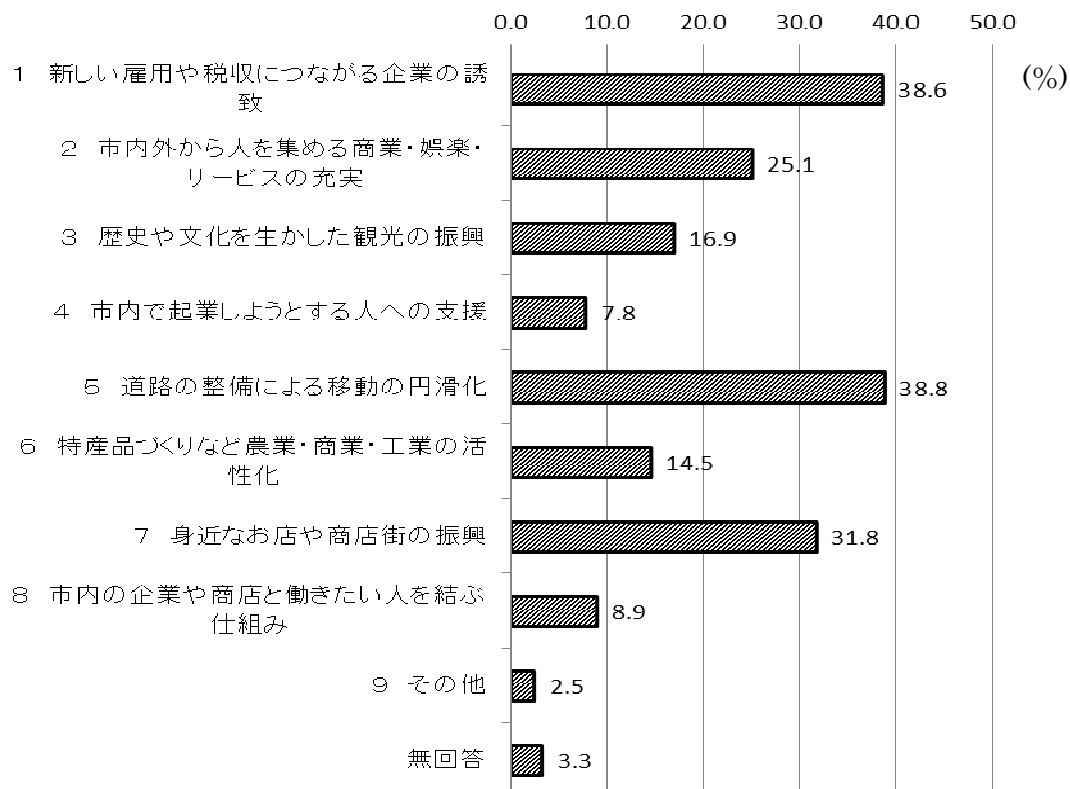
問8 向日市に住んでいて、良くないと思う点は何ですか。次のなかから3つまで選んで、
ご記入ください。



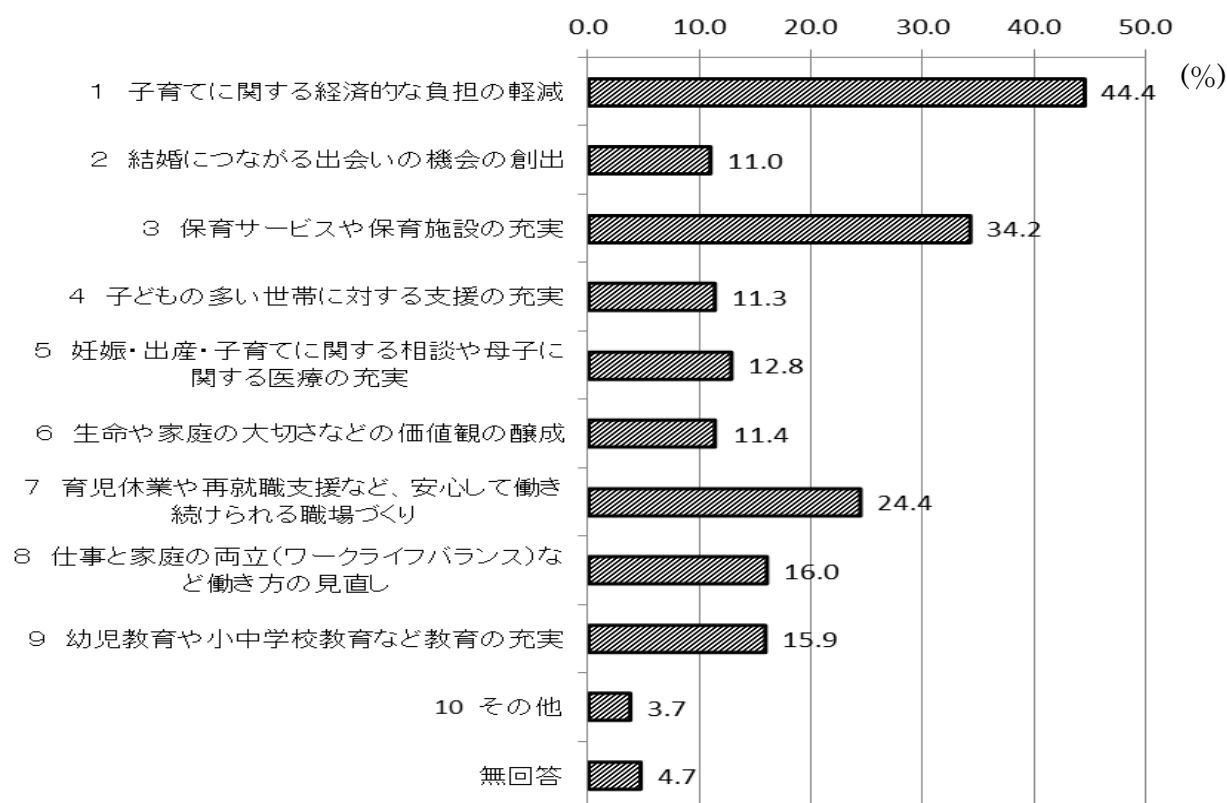
問9 あなたはこれからも向日市に住みたいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、ご記入ください。



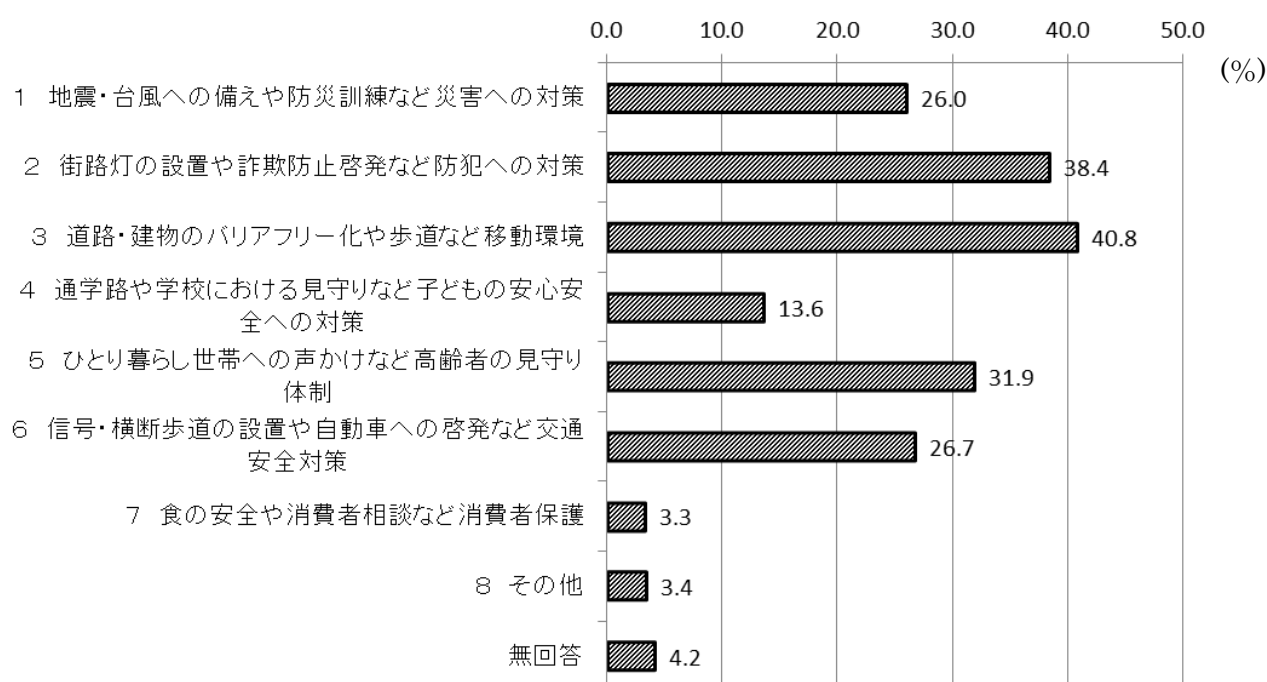
問10 雇用やまちの経済を活発にしていくためには、どのような取組みが大切だとお考えですか。特に重視するものを2つまで選び、ご記入ください。



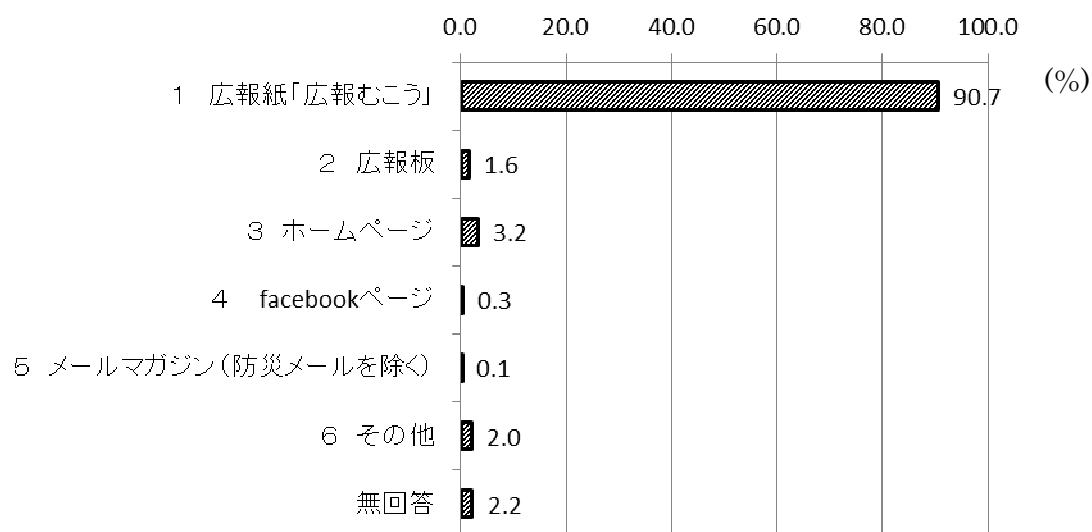
問１１ 少子化に歯止めをかけるため、向日市では特にどんな取組みに力を入れるべきだとお考えですか。特に大切なと思われるものを２つ選び、ご記入ください。



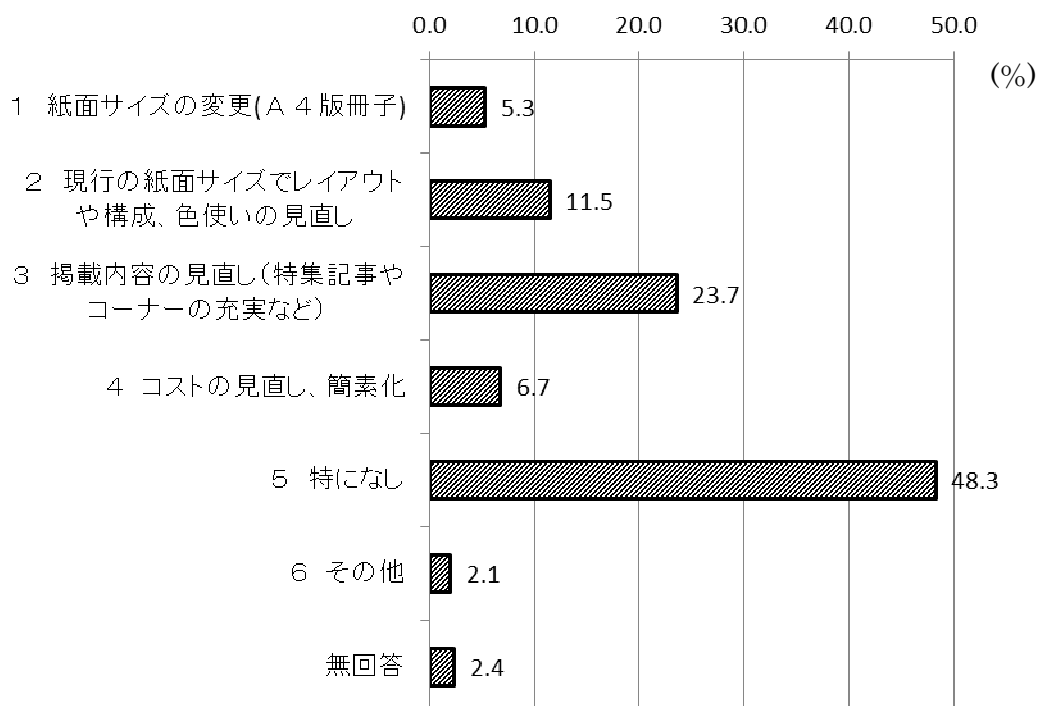
問１２ あなたが暮らしている地域の安心・安全について、不安に思うことはありますか。特に不安に思うことを２つまで選び、ご記入ください。



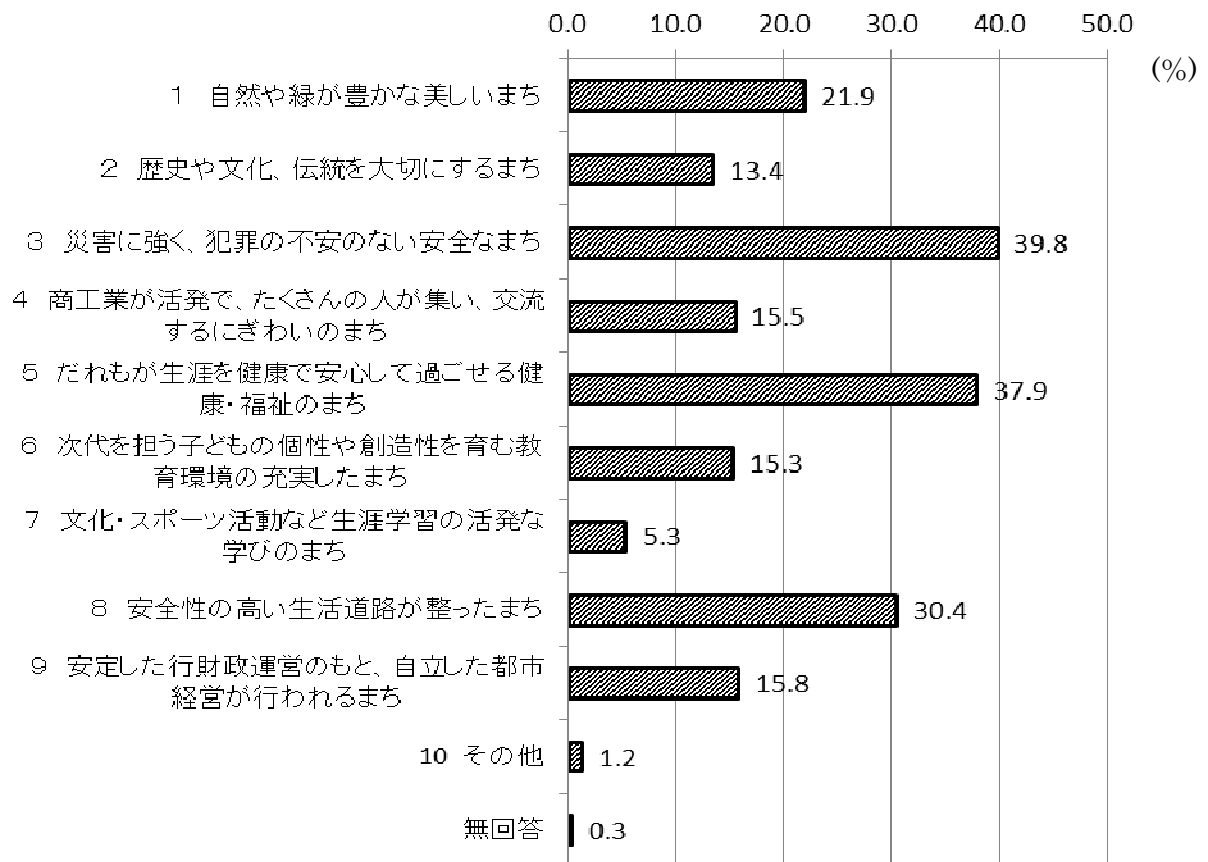
問１３ 市の広報媒体について、日頃もっともよくご覧になるものを１つ選び、ご記入ください。



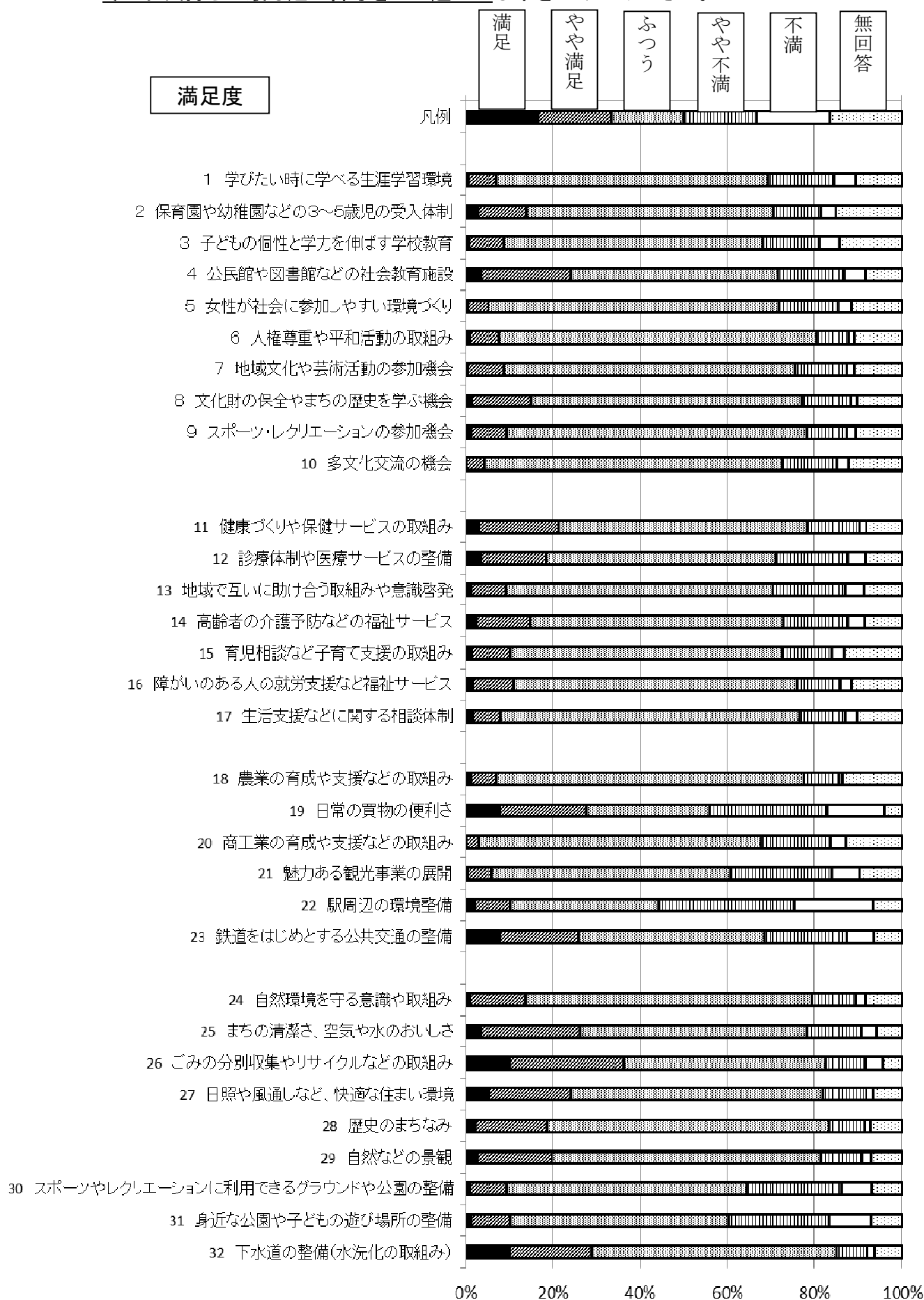
問１４ 本市の広報紙について、より良くするために最も重要と思われるものを１つ選び、ご記入ください。

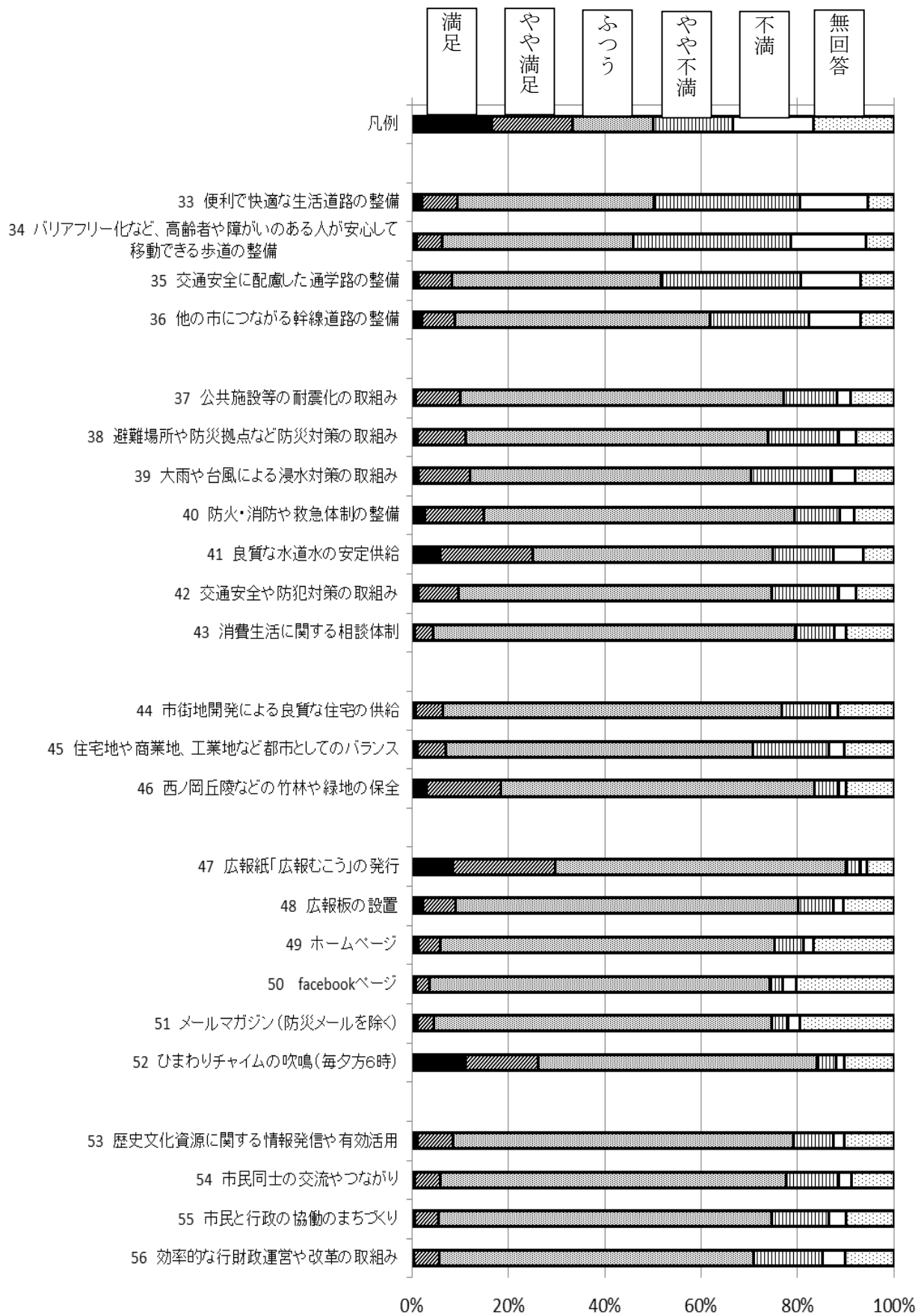


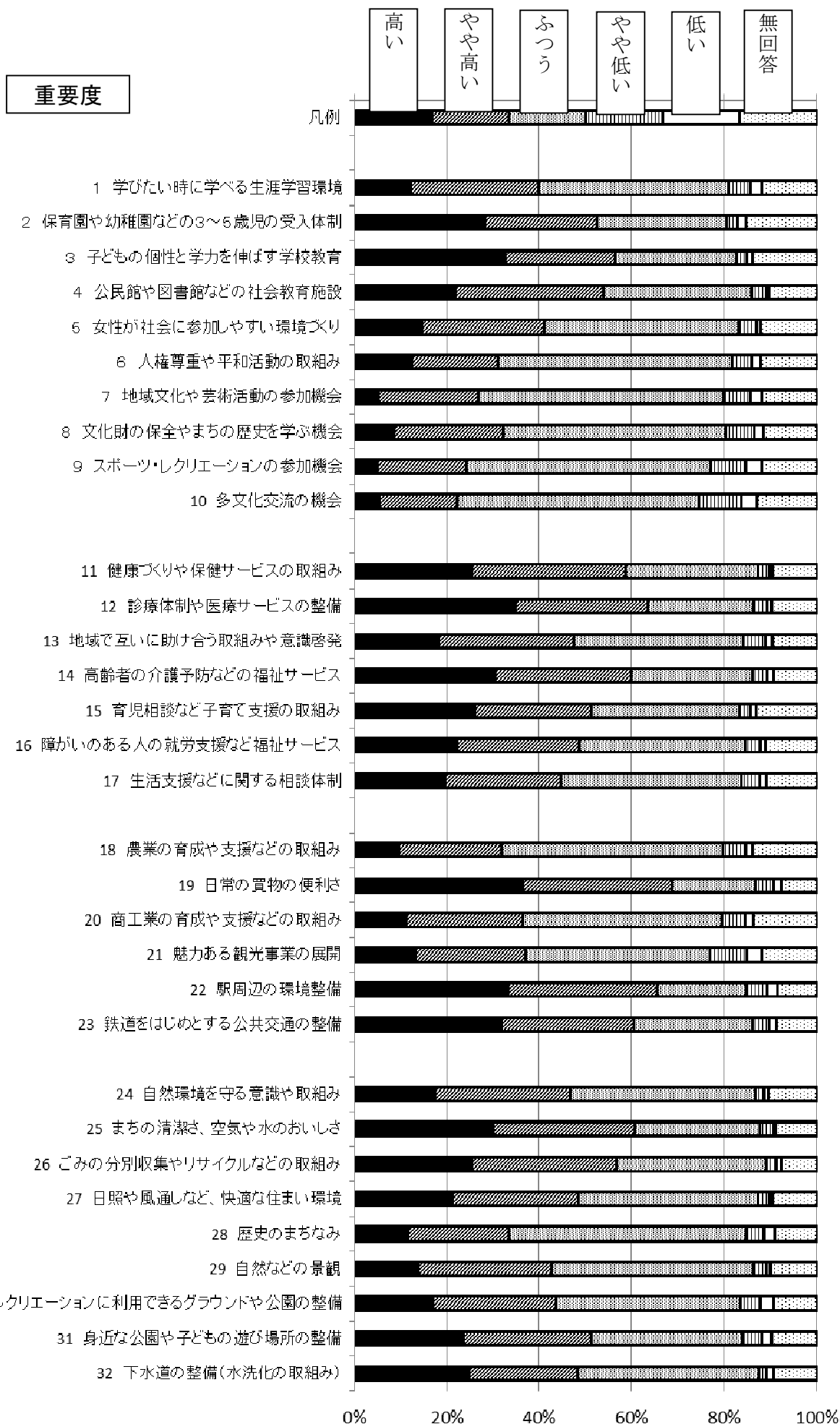
問15 今後、向日市がどんなまちであってほしいとお考えですか。特にあてはまるものを2つまで選び、ご記入ください。

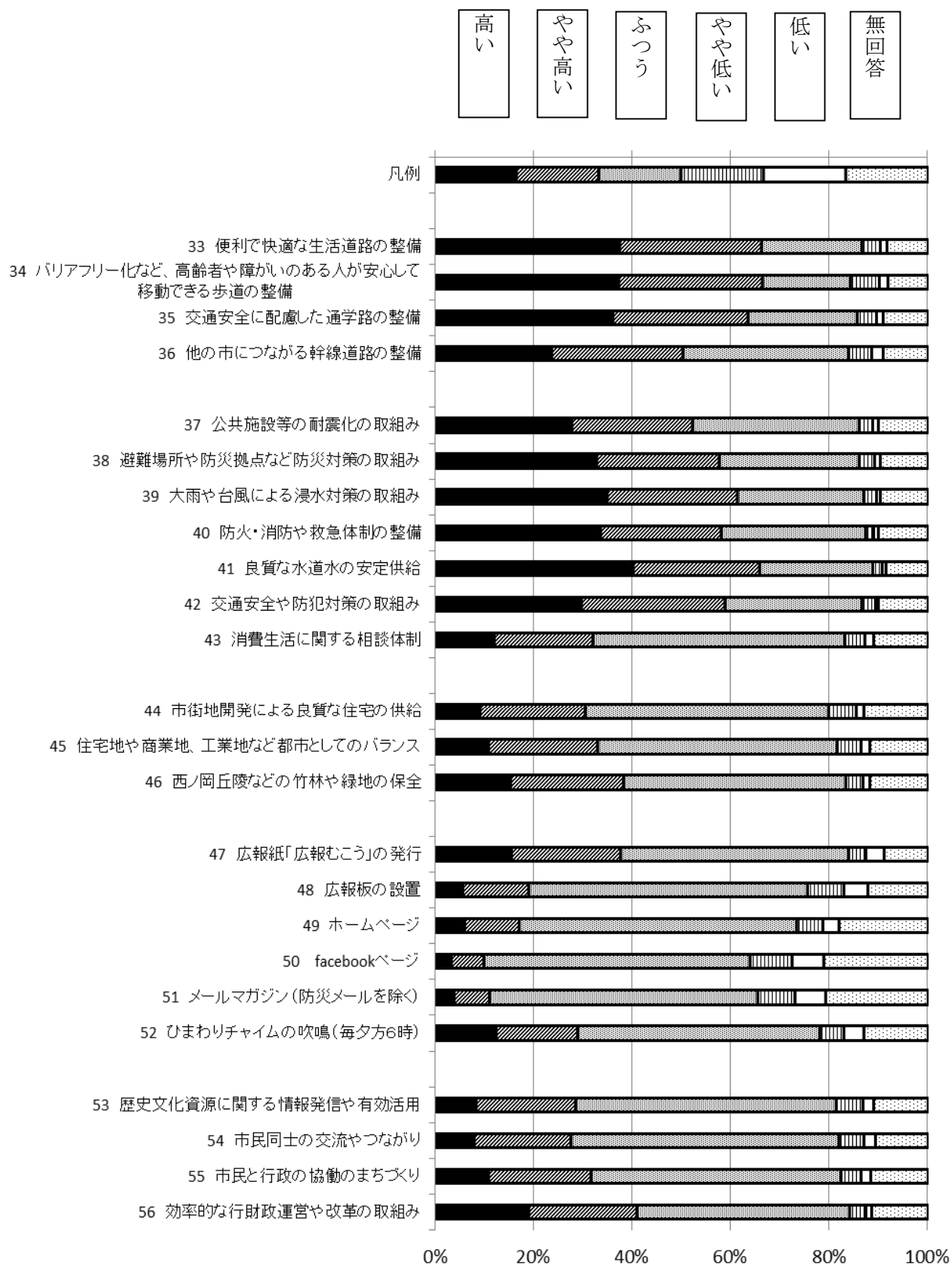


問 16 あなたは、まちの住みごちや行政の施策について、日ごろどのように感じておられますか。また、今後の重要性について、どのようにお考えですか。回答例にならって、今のお気持ちに最も近い番号を1つ選んで○印をつけてください。









向日市ふるさと創生計画構成イメージ

